

平成国際大学 vs 産業能率大学

5月11日(日)
11:30K.O.
法大G

12位と11位の対戦だが、連続して勝点を獲得しており、どちらも浮上のきっかけをつかみたい試合となる。

平国大は前節、3位の法大とスコアレスドローで引き分けた。前半戦は逆転負けが続き今季まだ勝利はないものの、2試合連続引き分けで、少しずつ成果につながるようになってきた。特に、複数失点を重ねてしまっていた守備面が改善の兆しで、ここ2試合で1失点、前節はようやく無失点に抑えた。それも攻撃力のある法大を相手に、シュートは数多く打たれたものの厳しいプレッシャーをかけることで決定的なピンチは未然に防いだ。ただし、「自信になる部分もあるが、勝ち切るにはまだ1ランクも2ランクも成長しなければいけない」(西川誠太監督)。攻撃面ではやや焦って蹴り込んでしまうシーンも目立ったが、「しっかりボールを収めたりサポートに入るタイミングが課題」(西川監督)。

対する産能大は前節、青学大に1-0で勝利し、待望の関東リーグ初勝利をマークした。こちらも無失点に抑えたのは今季初。全体的には青学大に押し込まれたが、球際の戦いに粘り強く対処し、カウンターからチャンスを狙う展開に。FW越智大和(1年)とFW見留耀太(3年)のコンビによる中央突破から、貴重な1点をもぎ取

った。終盤は青学大の猛攻にさらされたが、クロスバーにも助けられて守り切った。加藤望監督は「一人ひとりがつながってチームとして戦えたのが良かった」と褒めたが、「一つひとつのプレーの質をもっと上げていかないといけない」と課題も示した。初の関東リーグで試合内容は徐々に上向いているのも確かであり、初勝利をきっかけに上を目指していけるか、大事な一戦だ。

<3回警告>小松崎雄太(平国大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

平国大		産能大	
3. 深井	15. 堀越	11. 青木	25. 渡辺
6. 福嶋	5. 鎌田	4. 楠元	36. 須永
21. 馬屋原	34. 押山	37. 見留	31. 安田
	9. 星子	34. 越智	33. 浜下
17. 尾林		6. 遠藤	
26. 小松崎	29. 木曾	17. 岡村	32. 上長
2. 増田			

法政大学 vs 日本大学

5月11日(日)
13:50K.O.
法大G

足踏みが続いている法大と、3連敗の日大との対戦。連続引き分け、あるいは連敗を脱するのはどちらか。

法大は前節、平国大とスコアレスドローで引き分けた。これで実に4試合目のドロー。スコアレスドローも2度目で、敗戦はないものの引き分け続きで上位2チームから徐々に差をつけられている。序盤戦では快調に得点を量産していたが、ここ数試合はやや低調だ。平国大戦もシュート数は12-3と圧倒したものの、ゴールに結びつけることができなかった。「相手が一生懸命守ってくる中で、もうちょっと工夫できないとゴールは生まれにくい」と長山一也監督が嘆いたように、主導権は握っているものの、平国大のプレッシャーの前にプレーの確実性が妨げられた。一方で、未だ最少失点を誇る守備面にほころびは見えない。今節も下位の日大が相手だが、現状のところ9位以下のチームにすべて引き分けは痛い。確実に勝点3を奪うゲームができるか。

対する日大は前節、関学大に2-4で敗れた。これで3連敗となってしまったが、6試合で3得点しか記録していなかっただけに、2得点を奪ったことは明るい材料ととらえたい。それでも、前半で2失点しては反撃は厳しい。開幕戦で勝って以降は結果が出ておらず、プレッ

シャーをかけて高い位置での守備が機能せず、引き気味になるシーンも増えている。リーグ序盤のような積極性をもう一度取り戻したいところだ。「前半はプレスもかけられず気持ちも出ていなかった。チャレンジする気持ちを忘れずにプレーしてほしい」(川津博一監督)。勝点1も大事だが、気持ちが守りに入っては勝利は遠くなる。積極的に前線にボールを入れていきたい。

<3回警告>西室隆規(法大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

法大		日大	
2. 永戸	14. 白石	7. 廣田	5. 鈴木
22. 田代	25. 西室	8. 床井	22. 浅野
21. 富澤	18. 鈴木	43. 高山	1. 谷
	10. 高橋		
5. 山口		15. 山口	
3. 宗近	16. 青島	4. 高橋	
6. 星		6. 中村	36. 川島

予想布陣は直近の試合を参考に作成しています

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.8

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



産能大初勝利、拓大が5位浮上!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは第7節が行われた。ゴールデンウィークのタイトな日程の中、下位のチームが勝点を挙げた。まず、産能大が青学大を1-0で下して関東リーグ初勝利を飾り、拓大は東洋大に2-0で勝利して9位から5位へジャンプアップした。最下位の平国大も法大と0-0で2連続引き分けとなり、浮上への糸口を手繰り寄せている。一方、上位2チームは神大が東農大に3-0、関学大は日大に4-2と勝利し、磐石の体制を築きつつある。また、日体大は東学大に1-0と5試合ぶりの勝利を収めた。

上位2チームがやや抜け出した感があるが、3位から7位までは

得点ランキング		アシストランキング	
5: 中村 瞬 (関学大)	萱沼 優聖 (関学大)	4: 伊東 純也 (神大)	3: 太田 一輝 (関学大)
4: 高木 利弥 (神大)	伊東 純也 (神大)	菅沼 優聖 (関学大)	菅光院 誠 (関学大)
3: 全6名	木村 魁人 (関学大)	桂 大晴 (日体大)	大森 勇希 (拓大)
2: 全15名	星子 直哉 (平国大)	平石 直人 (東洋大)	仙頭 啓矢 (東洋大)

勝数では並んでいる。下位の巻き返しも見られ始めただけに、前期の残り4節はどのような展開となるのか、終盤戦はますます目が離せなくなりそうだ。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第7節終了時)

順位	2部	神大	関学大	法大	日体大	拓大	東洋大	東学大	東農大	青学大	日大	産能大	平国大	勝数	負数	点数	得点	失点	得失差	
1	神大		6/15	5/25	5/11	4 0 0	5/18	3 0 1	3 0 0	2 Δ 2	1 0 0	4 0 0	5 0 3	6	0	1	22	6	16	19
2	関学大	日体大G		5/17	5/25	2 0 0	1 ● 2	3 0 0	2 0 1	5/10	4 0 2	3 Δ 3	5 0 0	5	1	1	20	8	12	16
3	法大	東洋大G	青学大G		0 Δ 0	3 0 0	2 0 0	6/14	1 0 0	2 Δ 2	5/11	2 Δ 2	0 Δ 0	3	0	4	10	4	6	13
4	日体大	日体大G	BMWス	0 Δ 0		0 ● 2	6/15	1 0 0	1 Δ 1	5/17	0 Δ 0	4 0 1	2 0 1	3	1	3	8	5	3	12
5	拓大	0 ● 4	0 ● 2	0 ● 3	2 0 0		2 0 0	5/10	5/18	3 Δ 3	2 0 0	5/25	6/14	3	3	1	9	12	-3	10
6	東洋大	たつこ	2 0 1	0 ● 2	日体大G	0 ● 2		0 ● 1	5/11	5/25	0 ● 1	4 0 0	3 0 2	3	4	0	9	9	0	9
7	東学大	1 ● 3	0 ● 3	法大G	0 ● 1	たつこ	1 0 0		0 ● 1	2 0 0	5/25	5/17	3 0 2	3	4	0	7	10	-3	9
8	東農大	0 ● 3	1 ● 2	0 ● 1	1 Δ 1	上柚木	日体大G	1 0 0		6/14	1 Δ 1	5 0 0	5/24	2	3	2	9	8	1	8
9	青学大	2 Δ 2	保土ヶ谷	2 Δ 2	青学大G	3 Δ 3	東洋大G	0 ● 2	法大G		2 0 1	0 ● 1	1 Δ 1	1	2	4	10	12	-2	7
10	日大	0 ● 1	2 ● 4	法大G	0 Δ 0	0 ● 2	1 0 0	産能大G	1 Δ 1	1 ● 2		6/14	5/18	1	4	2	5	10	-5	5
11	産能大	0 ● 4	3 Δ 3	2 Δ 2	1 ● 4	産能大G	0 ● 4	ゼットエー	0 ● 5	1 0 0	産能大G		5/11	1	4	2	7	22	-15	5
12	平国大	3 ● 5	0 ● 5	0 Δ 0	1 ● 2	産能大G	2 ● 3	2 ● 3	千葉東総	1 Δ 1	上柚木	法大G		0	5	2	9	19	-10	2

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

どうせなら、勝って泣きたい。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会

RECRUIT

関東学院大学 vs 青山学院大学

5月10日(土)
11:30K.O.
保土ヶ谷

今季初黒星のあと5勝目を挙げた関学大と、4連続引き分けのあと敗戦を喫した青学大との対戦。首位の神大を追う関学大、そして第2節以降勝利のない青学大とも負けられない一戦だ。

関学大は前節、日大を4-2で破った。その前の試合で今季初黒星を喫し、「上を目指す中で連敗は許されない状況だった。選手も緊張感を持って臨めた」(石村大監督)という試合は、スタメン復帰したMF中村瞬(3年)が18分に先制の口火を切ると、DF木村魁人(3年)が2点を挙げて3点のリードを奪った。そのあと1点を許すも、3点リードを追い付かれた第4節の試合を教訓にダメ押し点をマークした。中央から、サイドからと、攻撃の形は非常に良く、「自分たちのやろうとすることができるシーンが多くなってきた」と石村監督も評価。意図してチャンスをつくり出す力は確実にしている。負けない首位チームに離されず、ついていけるか。

一方の青学大は、4試合連続で勝ち切れず、前節は産能大に0-1と、今季初勝利を献上してしまった。「全体を通してボールやゴールを奪うという意欲が相手に負けていた」と宮崎純一監督が話したように、初勝利を目指す産能大の積極性に屈した格好だ。ボールポゼッショ

ンでは優位に立ったが、厳しいプレッシャーからボールを失いカウンターを受けるシーンが多く、その1本が決勝点に結びついてしまった。ただし、やはり課題は無得点に終わったこと。「カウンターからの失点は、シュートで終われなかった今日の試合を象徴していた」(宮崎監督)。今季好調の関学大の攻撃を抑えつつ、どれだけチャンスをつくれるか。

<昨年の対戦>前期/関学大0-0青学大、後期/関学大1-1青学大

関学大	青学大
4. 久保	2. 堤
11. 中村	10. 関谷
25. 亀井	9. 本城
9. 富樫	4. 水島
7. 太田	37. 高橋
10. 土館	8. 後藤
3. 原島	1. 高橋
33. 萱沼	5. 京谷
32. 木村	33. 山田
34. 山口	11. 恵
	6. 服部

東洋大学 vs 東京農業大学

5月11日(日)
11:30K.O.
日体大G

連勝の止まってしまった東洋大と、2試合勝利のない東農大との対戦。調子に乗り切れない両チームだが、どちらが主導権を握れるか。

2連勝で4位まで順位を上げた東洋大だったが、前節は拓大に0-2で敗れた。途中出場が良い働きを見せていたFW遊馬将也(3年)をスタメン起用して先制攻撃を狙ったが、風上に立った前半に攻め切れず、押し込まれる形となった後半にオウンゴールで先制点を与える不運。2点目もゴール前でクリアし切れなかったボールを押し込まれ、乗っている相手を勢い付かせてしまい反撃はならなかった。「ピッチコンディションや天候を考えてプレーしなければいけない。まずは先制点を与えないような安定感が必要」(古川毅監督)。2連勝中は逆転に持ち込めたから良かったものの、今季は7試合中6試合で相手に先制を許している。まずは前半の戦い方がポイントだ。

対する東農大は前節、神大に0-3で敗れた。今季は1試合1失点までにとどめていた東農大だったが、初めて複数失点を喫し、「点差通りの試合だった。選手も神大との差を感じたのでは」(木村俊夫コーチ)。しかし、「恐れずにもっと戦えたのではないか」(木村コーチ)

というように、前半、受け身になってしまったのが悔やまれる。早い時間に失点しながら粘りは見せたが、神大の速い攻撃にどうしても後手後手の守備となり、79分にオウンゴールで追加点を与えて万事休した。今節は勝点、得失点ともほぼ五角のチームが相手だけに、僅差に持ち込み粘り勝ち得意のパターンに持ち込みたい。

<出場停止>田口慎太郎(東洋大)/3回警告:小山大貴(東洋大)、金裕志(東農大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大	東農大
24. 池田	2. 中西
10. 平石	11. 井上
4. 郡司	15. 小田原
15. 小山	7. 和氣
1. 浅沼	12. 榊原
7. 齊藤	14. 石川
18. 遊馬	1. 矢口
14. 小山	25. 金
3. 筑井	5. 櫻岡
28. 仙頭	8. 佐々木
16. 石坂	3. 加藤

東京学芸大学 vs 拓殖大学

5月10日(土)
11:30K.O.
たつこの

3連敗中の東学大と、4試合負けなしの拓大との対戦。調子の戻ってきた拓大の勢いを、東学大が止めて連敗を脱出することができるか。

その東学大は前節、日体大に0-1で敗れ、3連敗となってしまった。この3試合、得点はオウンゴールの1点であり、攻撃面の修正が急務だ。日体大戦は、中盤でつづし合い、お互いに攻め切れない試合展開となったが、後半アディショナルタイムにPKを与えて敗れるというショッキングなものだった。しかし、日体大戦までの3試合では合計8失点を喫していただけに、守備面では改善の兆しが見える。攻撃では「組み立ての面でダイナミックさが足りず、残念な内容だった」と榎山康監督は嘆いたが、その前の神大戦に続き決定的なチャンスを決められなかったシーンも見られた。今は我慢の時。前線の動きを活性化し、多くのチャンスをつくりたい。

一方の拓大は、リーグ序盤の3試合から内容が一変、ここ4試合は7得点3失点で負けなし。前節も東洋大を2-0と完封した。昨季1部リーグの東洋大に完勝し、ムードはますます上向きだ。何とんでも、序盤戦は淡泊だった守備が「全員で労を惜みず走り続けたことが良かった」(玉井朗監督)というように粘り強くなり、

守備から攻撃につなげていくことができるようになったのが大きい。東洋大戦の得点は、オウンゴールと相手のミスに付け込んだものではあったが、相手ゴール前に侵入できるシーンが増えたからでもある。今はこの勢いを大切にしたい。

<3回警告>永井雄介(東学大)、谷川貴也・多田和明(拓大)

<昨年の対戦>前期/東学大2-1拓大、後期/東学大1-1拓大

東学大	拓大
2. 吉田	2. 谷川
7. 佐藤	24. 多田
3. 久司	11. 西岡
8. 菅	6. 紙谷
11. 五十嵐	27. 森川
1. 須賀	21. 佐川
14. 平田	31. 宗像
4. 脇本	18. 沼倉
9. 山田	13. 三浦
18. 久保	16. 大森
5. 廣木	26. 新山

日本体育大学 vs 神奈川大学

5月11日(日)
13:50K.O.
日体大G

5試合ぶりに勝利を収めた日体大と、未だ負けなしで首位を走る神大との、今節最も注目の一戦。日体大は昨季1部の意地を見せることができるか。

その日体大は前節、東学大を1-0で破ってようやく“勝ち切った”。開幕2連勝のあとは4試合で3引き分け、特に4試合で1得点しか奪えないという不振に苦しんでいただけに、久々の勝利をきっかけに調子を取り戻したいところ。しかし、東学大戦も攻め切れないシーンは目立ち、後半アディショナルタイムに得たPKで虎の子の1点を奪ったという勝利であった。倉又寿雄監督も「流れから得点できるようにゴールへの意識を高めなければ上位にはいけない」と話した。しかし、一方で「守備が安定して失点も減ってきたため、徐々にチームとして良くなってきた」(倉又監督)。早くも前期は残り3試合。上位と当たるこの2試合は真価が問われる。

対する神大は、1引き分けをはさんで6勝目を挙げ、好調を維持している。前節も東農大から3点を奪い、3-0と完勝した。早い時間に先制点を挙げながら、なかなか2点目を奪うことができなかったが、それでも試合終盤にオウンゴールを含む2点を追加してダメ押し。「連戦だったので体力的な心配があったが、気温が低く

て逆に良かった。早めに点が取れたことが結果につながった」(松永道敬総監督)。過密日程を考慮して、特に前線の選手はうまく入れ替えながら試合を進めているが、誰が出て結果を残す良いサイクルになっており、ますます層が厚くなった感がある。攻撃が好調で守備の負担も少なくなっており、前期はどこまで連勝を伸ばし、無敗を守れるか。

<3回警告>阿部潤(日体大)、南祥巧(神大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大	神大
2. 高野	29. 南
10. 阿部	22. 伏木
13. 増谷	5. 杉山
17. 高井	6. 前田
23. 小泉	10. 伊東
1. 伊藤	14. 芦野
4. 桂	12. 黒沢
20. 高野	16. 武田
7. 長谷川	4. 藤原
16. 手塚	18. 斎藤
26. 福田	3. 高木